



中央ろうきん助成プログラム

選 考 結 果

ろうきんの理念

ろうきんは、働く人の夢と共感を創造する協同組織の福祉金融機関です。
 ろうきんは、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを目的とします。
 ろうきんは、働く人の団体、広く市民の参加による団体を会員とし、そのネットワークによって成り立っています。
 会員は、平等の立場でろうきんの運営に参画し、運動と事業の発展に努めます。
 ろうきんは、誠実・公正および公開を旨とし、健全経営に徹して会員の信頼に応えます。

ろうきんの基本姿勢

目的 ろうきんは、働く仲間がつくった福祉金融機関です
 ろうきんは、労働組合や生活協同組合などの働く仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合っつった協同組織の金融機関です。
 ろうきんは働く人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりに寄与することを目的としています。

運営 ろうきんは、非営利・公平・民主的な運営の金融機関です
 ろうきんは、労働金庫法に基づいて、営利を目的とせず、公平・民主的に運営されています。
 ろうきん独自の運営に共感する人たちの輪が、働く人の団体・市民の参加を得て、全国で1,100万人の人たちに広がっています。

事業 ろうきんは、生活者本位の金融機関です
 ろうきんの業務内容は、預金・融資・各種サービスなど、一般の金融機関とほとんど変わりません。しかし、ろうきんでは資金の運用が、生活者本位に行われているのが特長です。
 働く人たちからお預りした資金は、住宅・マイカー・教育資金など、働く人たちの生活を守り、より豊かにするために役立てられています。

〈中央ろうきん〉の概要

(2018年9月末現在)

名 称	中央労働金庫	常勤役員数	3,183人
代 表 者	理事長 松迫 卓男	総 預 金 残 高	6兆1,945億円
本店所在地	東京都千代田区神田駿河台2-5	貸 出 金 残 高	4兆1,157億円
電 話 番 号	03-3293-1611 (代)	設 立	1952年4月25日(2001年4月1日合併)
ホームページ	http://chuo.rokin.com	事 業 エ リ ア	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
店 舗 数	147店舗※		

※中央ろうきんの店舗数には、バーチャル店舗(インターネット中央支店、中央ふれあい第一支店)を含みます。

目次

ごあいさつ_p.2

選考委員長による選後評_p.3

プログラムの特長_p.4

助成対象団体一覧_p.5

助成対象団体の概要_p.6

選考委員 所感_p.10

中央ろうきん社会貢献基金

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5(中央労働金庫 総合企画部内) フリーダイヤル:0120-86-6956(平日9:00~18:00)

ごあいさつ

〈ろうきん〉は、働く仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関。「働く人の生活を守り向上させる」という使命のもと、労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織と連携した助け合いの金融機能によって、働く人が安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

いま、働く人が暮らす地域は、子育てや介護、環境、さまざまな障がいや困難、格差など、たくさんの課題を抱えています。

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる。私たちは、そうした人間味ゆたかな「共生社会」の具体化をめざし、2002年度に「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」をスタートしました。

このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、働く人が抱える地域社会の課題解決に向け、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。特に、財政規模の比較的小さな団体を対象とし、市民活動の新しい芽をじっくり支えるプログラムとなっています。また、このプログラムを通して〈中央ろうきん〉の会員と、助成対象団体との協働が生まれることも期待しています。

今年4月、2019年の選考作業を無事終了することができました。

〈中央ろうきん〉をご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」を知っていただきたいという思いから、本冊子「2019年選考結果」を作成いたしました。心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。

中央ろうきん社会貢献基金

● 選考委員会

※敬称略 所属名は選考委員会開催時点（2019年3月）

- 選考委員長 黒河 悟（労働者福祉中央協議会 副会長）
選考委員 岩井 俊宗（特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事）
選考委員 上田 英司（認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局次長）
選考委員 佐藤 繭美（法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授）
選考委員 岩村 真奈美（中央労働金庫 総合企画部(CSR) 上席調査役(主幹)）

*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもと、企画・運営を行っています。

中央ろうきん社会貢献基金

福祉・環境および文化にかかわる助成、支援活動を通じて、人々が共生できる社会の実現に資することを目的に設立（2002年4月1日）。働く人の団体、広く市民の参加による団体に対する助成・支援活動とそのために必要な事業を実施しています。

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立（2002年4月1日）。個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。

東京都中央区日本橋堀留町1-4-3 日本橋Mビル1階 / TEL:03-5623-5055 / <http://www.civilfund.org>

選考委員長による選後評

2019年助成の選考について

選考委員長 黒河 悟（労働者福祉中央協議会 副会長）



活動のストーリーを描いて、多くの人と共有化をしよう

「中央ろうきん助成プログラム」の新規募集が終了して2年。今回は、スタート助成3年目とステップアップ助成のみの選考となりました。昨年12月に「フォローアップミーティング」という中間報告会が実施されたこともあり、選考委員にとっても応募団体の活動にはなじみがありました。そのため応募用紙を読んでもさまざまな活動の情景が頭に浮かび、これまで以上に熱のこもった選考委員会になったように思います。

さて、スタート助成3年目の応募は9団体で、書類選考とポスターセッションによる選考を行いました。どの団体も着実に成長しています。「ひと・まち・くらしづくり」というこの助成プログラムの主旨・目的をしっかり受け止め、地域の課題やニーズに応えることを単なる繰り返しで行うことなく、新たな課題の発見や活動への挑戦に意欲が感じられました。今回の助成の採択・不採択は、活動評価の良し悪しだけではなく、どちらかという、「もうこの支援がなくても自立できる団体に成長している」、「助成することが団体飛躍の先延ばしになりかねない」など、団体やその活動への期待が大きかった故の不採択であったと言っても良いかもしれません。スタート助成3年目に応募されたすべての団体にエールを送り、これからの活動に期待したいと思います。

次に、7団体の応募があったステップアップ助成は、書類選考とプレゼンテーションによる選考を行いました。今回の選考では、スタート助成で蓄積した活動の中で見えてきた課題を捉えているか、活動やそれを支える組織（団体）を「こうステップアップしたい」というビジョンがより明確になっているか、そしてそのためにこの助成が必要か、ということが論点になり、採択の分岐点となったかと思えます。どの団体も地域ニーズに寄り添うとともに、現代社会が抱えるどこにでもある課題に正面から向き合ってきた意義ある活動を進めていることに間違いありません。ステップアップ助成に応募されたすべての団体が、ス

タート助成での経験を大切に、今後更なる活動を展開していくことを期待したいと思います。

選考全体を通じて感じたことを述べさせていただきますと、昨年の選後評の表題は「周りにある宝を大切に、もっと繋がろう人と地域と」と付けました。そして、「代表者や事務局がひとりで請け負うのではなく、みんなの知恵や力を借りること」、また「地域の他団体との繋がりを自分たちから積極的に求める」ことを訴えました。1年間ですぐに効果がでるとは決して思いません。時間がかかります。だからこそ、地道にこのことを意識して活動していくことが大切です。今回の選考を通じて、このことがしっかり出来つつある団体がある一方、「活動の担い手が固定し、広がりが見られない」、「連携団体の広がりに欠けている」などの指摘がある団体もありました。このことを念頭に置いて1年間活動を進めていただき、特にスタート助成3年目の団体は是非、次年度のステップアップ助成の応募に挑戦し、成長した姿を見せていただきたいと思えます。

今、日本の社会は富の一極集中が進む一方、格差や貧困がより拡大・深刻化し、また社会の分断・孤立化も進み、自己責任論がますます強まっています。私たちが「働き、暮らす」社会が危機に瀕していると言っても過言ではありません。今こそ、この私たちが働き暮らす社会を強くしていくことが求められていると言えましょう。社会を強くするには、地域の人に寄り添い支えあう活動をする労働組合や協同組合、そしてNPOのような市民活動団体がたくさんできて活発に活動していくことが、地域や人々の暮らしを守るために大切です。その意味でも、この中央ろうきん助成プログラムが団体の育成に果たしてきた意義は大変大きかったと思えます。このプログラムの経験を是非有効に受け止めて、次に生かしていただきたいと考えています。

プログラムの特長

「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取り組む〈中央ろうきん〉の社会貢献活動です。

対象分野 下記の3分野を対象としています（複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます）。

<p>ひとづくり 未来をになう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など</p>	<p>まちづくり 生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住み良い地域環境をつくる活動など</p>	<p>くらしづくり 地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など</p>
---	---	--

重視する活動 働く人が抱える地域社会の課題を解決する活動で、以下のものを重視します。

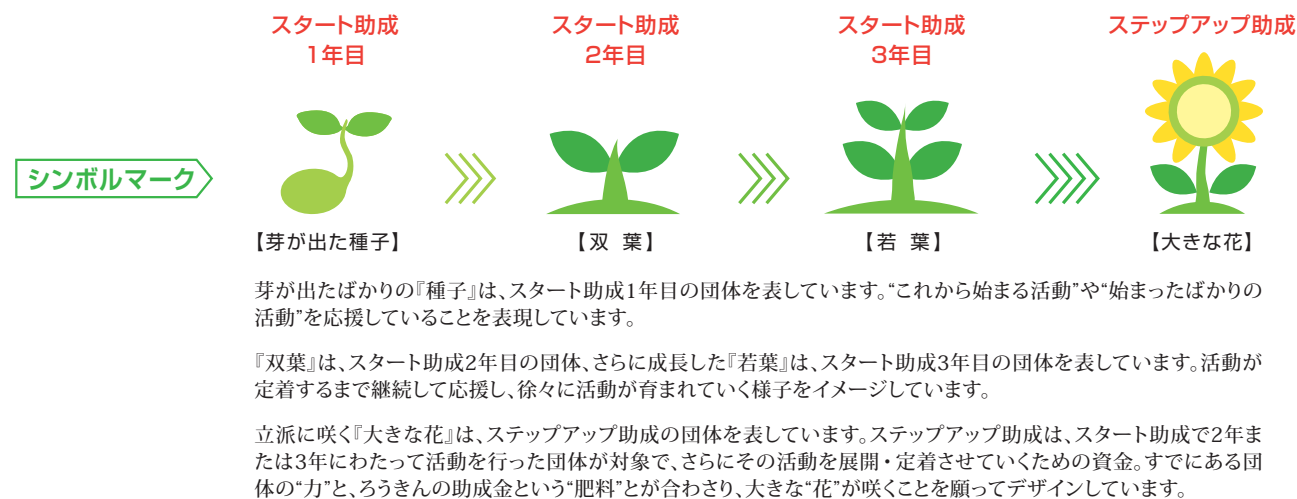
- 働く人が、自らの経験を活かして参加する活動
- 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動
- 地域のさまざまな団体が連携し、取り組む活動

ステップを踏んでチャレンジする、継続助成制度

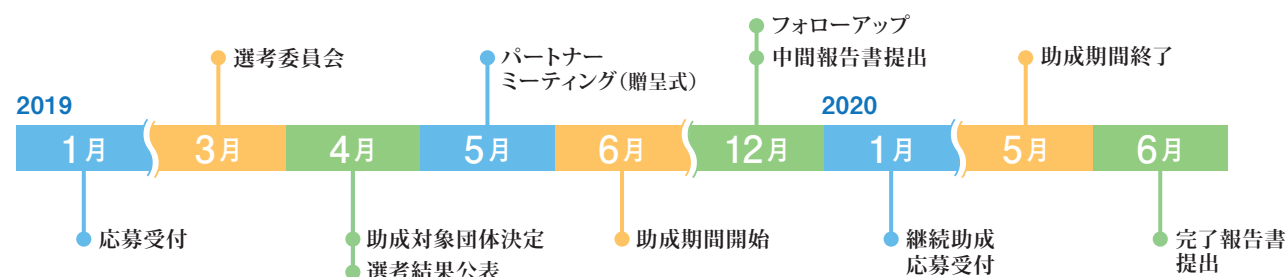
スタート助成1年目の助成が決定すると、活動の発展に伴って2年目、3年目、更にステップアップ助成へと継続的に応募し、最長4年間の助成に挑戦することができます。

継続して助成を受けるには、年ごとに応募し、選考を受ける必要がありますが、応募用紙を作成することで、各団体の活動の目的・内容・方向性などを改めて振り返っていただく機会の創出につなげています。

※現在、新規の募集は行っていません。



プログラムのスケジュール



“つながり”を大切にしている助成制度をめざして

年ごとに実施されるこのプログラムでの出会いは、一期一会。〈中央ろうきん〉と助成団体との出会いはもちろん、助成団体同士の出会い、選考や運営に協力いただく選考委員・NPO支援組織の方々との出会いがあります。このプログラムで出会った方々との“つながり”を大切に、分野や地域を越えた新たなネットワークやパートナーシップを築いていただくため、年に数回の交流の場を設けています。

パートナーミーティング(贈呈式)

助成決定後に、記念盾贈呈セレモニーと交流会の2部構成で開催しています。助成が決まったすべての団体にご出席いただくほか、選考委員や1都7県の地域のNPO支援組織の方、〈中央ろうきん〉職員もお祝いに駆けつけます。「パートナーミーティング」の名のとおり、これから始まるお付き合いの挨拶も兼ねて、相互の理解と親睦を深める交流の場となっています。



フォローアップミーティング(中間報告会)

助成期間を一定期間経過したのち、最長4年の助成制度を上手に活用し、それを糧にそれぞれの団体が自立した事業運営を進めていくためのディスカッションを実施しています。活動の成果や課題を振り返ることで自分たちの活動を見つめ直す機会となるほか、他の団体の活動内容や助成金の活用方法を知ることで、今後の活動のアイデアを共有する機会となっています。



助成対象団体一覧

2019年は、選考委員会による厳正な選考の結果、11団体 助成総額590万円(内訳：スタート助成7団体 助成総額210万円、ステップアップ助成4団体 助成総額380万円)が助成対象として選ばれました。

※2019年4月現在。活動名は一部変更となる場合がございます。

<スタート助成・3年目：7団体 総額 210万円> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	「息栖の森 ふるさと公園」最終造成工事	息栖の森 自然共生を図る会	後藤 和夫	那珂市中台	30万円
茨城	ママにとことん寄り添う子育て支援～ママたちが社会に出る一歩をサポート～	特定非営利活動法人 たまり場ぼぼ	早川 愛	ひたちなか市	30万円
群馬	障がい児の車いすテニス及び車いすスポーツによる余暇活動支援	群馬車いすジュニアテニスチーム 上州W-inds	福田 芳和	高崎市、前橋市、伊勢崎市	30万円
群馬	高齢化日本一の村で学ぶ本当の生きる力！なんもく大学 ツリーハウスプロジェクト	なんもく大学	古川 拓	甘楽郡南牧村	30万円
千葉	子育てしながら活動イベント交流にぎやか地域	にこりこワーカース	陶守 奈津子	千葉県美浜区海浜ニュータウン内外	30万円
東京	認知症高齢者の居場所づくり、介護者支援、地域への啓発を目指すカフェの運営	松が丘見守り隊	坂本 恵司	東久留米市 浅間町	30万円
神奈川	ハンドメイド(ものづくり)を通して、サバイバーが安心して過ごせる「居場所」づくり	ハナリマパイレーツ	赤松 未来	県内全域	30万円

<ステップアップ助成：4団体 総額 380万円> 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
群馬	アリスの広場(不登校やひきこもりなどの若者の居場所・就労体験の場)	特定非営利活動法人ぐんま若者応援ネット(アリスの広場)	佐藤 真人	群馬県・埼玉県・栃木県など	100万円
東京	なにしょっくクラブ	さきちゃんち運営委員会	八木 晶子	文京区	100万円
東京	滞日ネパール人と日本人の共生のためのアウトリーチ・プロジェクト	滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク	ダンゴール・ガンガ・デビ・栗原	東京都、神奈川県、千葉県、群馬県などのネパール人集住地域	80万円
神奈川	「もったいない！」をみんなの笑顔に～小さな村のジャムづくり～	特定非営利活動法人 結の樹よつてけし	岩澤 克美	愛甲郡清川村	100万円

助成対象団体の概要

(スタート助成・3年目／ステップアップ助成)



「息栖の森 ふるさと公園」最終造成工事

茨城県

息栖の森 自然共生を図る会

息栖の森(里山)地域において、土砂災害等の被害防止や自然環境の保全を図るとともに、地域住民が訪れ、交流の場になることを目指して環境整備に取り組む団体(2015年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、息栖の森に地域住民の誰もが訪れることができるよう、不法廃棄物の回収や間伐を行いながら、親水水路とそこにつながる遊歩道の造成、および季節ごとに楽しめる花木を植栽した。また子ども達が遊べる遊具類を充実し、カブトムシ養殖小屋も設置した。活動を通して地域における公園の認知も高まり、親子連れの来訪が増えつつある。
3年目は、引き続き、不法投棄の回収や間伐を行いながら、憩いの場となる東屋の設置や子ども達が遊べる芝スキー場の造成、駐車場の拡張などを行い、2019年度内に公園としての完成を目指す。



ママにとことん寄り添う子育て支援～ママたちが社会に出る一歩をサポート～

茨城県

特定非営利活動法人 たまり場ぼぼ

転入者が多いひたちなか市において、子育て中の親がお互いに不安や悩みを共有する「たまり場ぼぼ」の運営やホームスタート(家庭訪問型子育て支援)に取り組む団体(2015年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、孤立育児を支えるためのホームスタート事業の立ち上げに向けてオーガナイザー(調整役)研修とホームビジター(家庭訪問ボランティア)養成講座に組み込み、2018年4月より開始することが出来た。またホームスタートで元気になった母親が集う子育てサロンの充実を図るためにスタッフ研修と参加者のニーズ調査を行ったことで、スタッフ間の活動に対する意識を高めることが出来た。
3年目は子育てサロンを卒業した母親達が、自分の持っている資格や経験を活かしながら働けるよう、地域企業の協力を仰ぎ、説明会ブースを備えた「ぼかぼぼフェスティバル」を開催する。



障がい児の車いすテニス及び車いすスポーツによる余暇活動支援

群馬県

群馬車いすジュニアテニスチーム 上州W-inds

スポーツ体験や余暇活動をする場が少ない車いすユーザーの子どもたちが、心身の健全な成長を促すことを目的に、様々なスポーツ体験が出来る場の提供に取り組んでいる団体(2016年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、車いすユーザーの子どもたちに、本格的な車いすテニスの練習機会を定期的に提供したことで、大会などで優勝・入賞するまでになった。また誰でも参加できる車いすテニス体験会やテーブルサッカーの交流体験会も定着し、特にテーブルサッカーは健常児の参加が増え、障がいがあるなしに関係なく皆で楽しむ機会となった。
3年目はこれまでの活動を継続するとともに、車いすの練習だけでなく大会に参加したことのない子ども達向けに、団体主催のテニス大会を開催する。大会には県内でテニス部に所属している学生やシニア、地元企業にも声をかけ、県内での理解を促進する。



高齢化日本一の村で学ぶ本当の生きる力! なんもく大学 ツリーハウスプロジェクト

群馬県

なんもく大学

日本一高齢化が進む群馬県南牧村で、主に都会の若者を中心に、里山の素晴らしさと生きる力を学ぶ現代版寺子屋「なんもく大学」を開講している団体(2015年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、なんもく大学の活動のシンボルとなるツリーハウスを都会に住む人と村民が一緒になって建設し、まずは土台となるデッキが完成した。また作業だけではなく、村の伝統芸能や伝統行事、自然遺産などを学ぶ授業も開講し、南牧村の理解が深まるとともに村民との交流の輪が広がってきている。これらの活動を通して、全村民の半数以上がなんもく大学の活動を理解するに至った。
3年目は引き続きツリーハウスの建設作業を進めるとともに、南牧村の認知を更に高めるために紙媒体やSNSなどを用いて広報促進に努める。また将来的にNPO法人化を目指し、組織体制の見直しと強化を図る。



子育てしながら活動イベント交流にぎやか地域

千葉県

にこりこワーカーズ

地域の活性化や住みやすい地域と住まいづくりを目的とし、イベント開催や講座開講などの活動を通して、多世代交流や生活支援などのライフサポートに取り組む団体(2017年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、出産・育児のために離職したが、あらためて働くことを希望している女性達を対象に、以前の経験や仕事のスキルを活かせる講師の募集を行った。講師希望者にはイベント内容の企画検討や当日運営などのサポートを行い、託児には地域のシニアに協力を依頼した。開催したイベントの評判はいずれも高く、彼女たちの自信につながった。また活動を通して自治会や区役所、地域商店街とのつながりも生まれ始めた。
3年目は新たにシニア層も講師募集の対象とし、多世代の関わりを深める。これまで地域内で培ってきたつながり作りを団体内でノウハウとして蓄積し、次年度以降、事業として成り立つよう、検討を進めていく。



認知症高齢者の居場所づくり、介護者支援、地域への啓発を目指すカフェの運営

東京都

松が丘見守り隊

認知症高齢者に寄り添い、見守り、共に暮らす地域づくりの拠点として、松が丘カフェ「みよしさんち」を運営し、認知症高齢者に対する傾聴や対話活動、介護家族の相談事業及び地域啓発等に取組む団体(2017年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、高齢者居住率が20%以上と高い東久留米市浅間町地域に、認知症高齢者が安心してくつろげる居場所として、松が丘カフェ「みよしさんち」を定期的に運営した。また一人では来ることのできない当事者には地域包括支援センターと連携しながら、民生委員や認知症サポーターが自宅とカフェを散歩しながら送迎することも試みた。活動を通して支援の輪が広がり、家族会メンバーや大学生などもボランティアで参加している。
3年目も引き続き、カフェを定期的に運営しながら、地域内での認知度を高めていく。さらに各地域機関との連携を強化し、当事者と家族を見守る拠点としての展開を目指す。



ハンドメイド(ものづくり)を通して、サバイバーが安心して過ごせる「居場所」づくり

神奈川県

ハナリマパイレーツ

性犯罪の被害者を対象に、「傾聴」と共に「もの創り」を通して辛い体験を対外に出し、そして「創る」ことで達成感を得て、自尊心を取り戻していくための居場所を提供している団体(2016年設立)。
2ヵ年のスタート助成を受け、定期的にハンドメイドを行う場を提供し、同じ空間を共有しながらピアサポートによる支援を行ってきた。ハンドメイドの作品は地域支援団体と連携し、地域イベントで展示販売を行うとともに、活動内容を啓発した。また電話や来所によるピアカウンセリングも実施したことで、継続的な支援へとつなげることが出来た。
3年目も引き続き、ハンドメイドの場の提供とピアカウンセリングを行いながら、当事者が社会復帰できるよう継続的支援の仕組みを強化していく。また性暴力当事者の被害体験や二次被害(支援者による言葉の被害など)についての勉強会を定期的に開催し、地域内の理解促進を図る。



アリスの広場(不登校やひきこもりなどの若者の居場所・就労体験の場)

群馬県

特定非営利活動法人ぐんま若者応援ネット(アリスの広場)

不登校や引きこもりの若者が、家から一歩外に踏み出すためのフリースペース「アリスの広場」を開設・運営し、交流と相談事業を通じて、当事者とその親の支援に取り組む団体(2014年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受けて「アリスの広場」を常設し、のべ80名ほどの若者が居場所として利用した。若者たちは、この場を通じて外に出ることや多様な人と関わる中で視野を広げるとともに、ピアサポートや就労体験により自信を取り戻し、復学や進学をしたり実際に再就職するケースも出てきた。また、アーティストやアートセンターの協力を得て美術活動も定着させた。

ステップアップ助成では、引き続き「アリスの広場」を運営しながら、精神科医やソーシャルワーカーの協力を得て、よりサポートが必要な若者の支援を充実させる。就労体験については、農園での受け入れも視野に入れ、若者の出来る範囲を見極めながら徐々に自信を付けられるようバックアップを行う。また、美術やアウトドアなどのアクティビティも継続的に実施する。

選考委員会では、専門家や地域の団体と連携しながら、着実に歩みを進めていることが評価された。今後は、共に事務局を担う仲間を得るなど組織体制を整えて、安定的な活動基盤が作られることに期待し、応援したい。



※プライバシー保護のため画像を加工しています

滞日ネパール人と日本人の共生のためのアウトリーチ・プロジェクト

東京都

滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク

日本で長く暮らすネパール人とネパール人支援に関わる日本人が、ともに教育や保健医療に関する情報の提供、および通訳者や研修講師の紹介といった支援に取り組む団体(2015年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、「外国人をサポートするための生活マニュアル」のネパール語への翻訳や、保険や教育情報をテーマとしたセミナーを開催し、自治体や外国人支援のNPOとの協力関係を築くことができた。また、他国出身者との交流や、通訳研修を行ったことで、メンバー自身の学ぶ機会が増え成長につながった。

ステップアップ助成では、日本語学習の機会が少ない技能資格や家族滞在資格で来日した孤立しがちなネパール人に対し日本語教室を実施する。あわせて、滞在ネパール人の若者の需要に応え、日本における性に関する情報を提供する「ライフスキル研修」の実施や、ネパール人と日本人がともに通訳や翻訳を学び、共生について考える機会を提供する。また、高まる支援の需要に応えるために、事務局の体制を整え、業務の見直しや一部作業のマニュアル化を行い組織基盤の強化に努める。

選考委員会では、着実に実績が積み重ねられており、ネパール人以外のコミュニティとも連携している点が評価された。今後も、息の長い活動が続けられるよう、事務局機能を盤石なものとし、活動を展開されることを期待し、応援したい。



なにしょっかクラブ

東京都

さきちゃんち運営委員会

子どもが多世代と交流し、地域の大人に見守られながら育つ場「さきちゃんち」の運営を行い、子育てサロン、子ども図書館、子どもによる遊び場づくりなどに取り組む団体(2015年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、子どもの「やりたい」から生まれるプロジェクトを、子どもと一緒に考えて実現する「なにしょっかクラブ」を実施。活動日が増加し、子どもが自ら活動や企画を生み出せるようになり、参加人数も着実に増えてきた。また、「子どもたち自身での発信」に重点をおいたプログラミングやHP等での発信スキルをサポートすることで、他者に伝える経験から子どもたちの可能性を広げていった。

ステップアップ助成では、地域の中で応援者や協力者が増えてきたことを契機に、「まちに出掛けて見習い隊」として、まちの中に活動を展開していく。この取り組みでは、まちの仕事場への体験見学ツアーを行い、実際に仕事をする大人と出会うことで、子どもたちの興味や選択の幅が広がることを目指す。同時に、まちの大人たちにも「さきちゃんち」の取り組みや、参加している子どもたちについて知ってもらい相互に関わる機会を増やしていく。

選考委員会では、子どもたちの主体性を引き出す取り組みが着実に積み重ねられていることが評価された。今後は、活動場所の確保など、団体の基盤づくりも視野に入れながら、子どもも大人も参加する「さきちゃんち」のコンセプトが、より発展することに期待し、応援したい。



「もったいない！」をみんなの笑顔に～小さな村のジャムづくり～

神奈川県

特定非営利活動法人 結の樹 よってけし

人口減少や高齢化が進む神奈川県内で唯一の村・清川村において、地域住民が安心して生活できるコミュニティづくりと生きがいづくりを目的に食事提供・弁当宅配、交流促進事業などを行う団体(2014年設立)。

3ヵ年のスタート助成を受け、地域住民と協力して管理放棄・未収穫の果樹園等から柚子や梅、ブルーベリーなどを収穫しジャム加工・販売を実施した。また、積極的なイベント参加や農家とのコミュニケーションをはかり、協力農家の理解を得ることで借りられる畑が徐々に増え、近隣地域からも協力者を得るに至った。さらに、学生と一緒に地域づくりを考える活動も始まった。

ステップアップ助成では、取引先の増加にともない、加工場の拡充や交流の場の充実を図るための新しい拠点づくりと、さらなる資源の活用に取り組む。新しい拠点づくりでは、古民家を活用し、産学連携でアイデア出しのワークショップを重ねながら改修を行い、地域の人を巻き込んだ交流イベントを実施する。また、農産物や農地の活用については、商品の絞り込みを行うなど事業の質的な向上をはかる。

選考委員会では、農地の荒廃やコミュニティの希薄化といった地域の課題を長期的に見据え、多様な連携や参加を得て着実に活動を展開していることが評価された。今後は、これらの活動が地域に定着し、他の過疎地域のモデルとなることを期待し、応援したい。



選考委員 所感

選考委員会では、6つの選考基準(地域貢献性、参加性、独創性、実現性、成長性、発展性)に基づき、厳正な選考が行われました。各選考委員の所感を掲載いたします。

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗

今年も、熱意と使命感溢れる応募用紙を拝読し、皆様の取り組みに深く敬意を表します。今年も新規募集がなく、すべて継続助成であったことから、未来への計画書として捉えるだけでなく、前年度の取り組みについてもより深い理解に努め、選考の参考としました。

今回の選考では、助成を通じて、応募いただいた取り組みに広がりや深まりが生まれるかを多角的に協議しました。助成金が採択されることは喜ばしいことですが、今回不採択となった団体の中には、助成金がなくとも活動を継続しようと判断した団体もいました。このいい意味での「卒業」こそ、本来大変喜ばしく、誇らしい団体の一つの姿であると認識しています。助成金がなくても活動できる基盤と広がりを助成期間中に整え、良い意味での「卒業」を迎えることを心より祈念しています。

また、助成金については、活動を継続していくための資金としてだけでなく、将来想定される取り組みべきこと(仮説)を検証する資金としてなど、将来に備える資金として捉えることも効果的であると思います。単年度で活動を捉えることなく、将来実現したい景色から逆算して、長期的な取り組みを設定していくことも、それぞれの団体の次の成長ポイントになるかと思えます。皆様方の取り組みを待っている人がいるということに確信を持って、現場で力強く歩んでいって欲しいと思います。



認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局次長 上田 英司

今年の応募用紙は、団体の個性が輝くものばかりでした。「ひと・まち・くらし」づくりを実現していくための創意工夫が見られ、全国のモデルとなる取り組みも多数あると感じました。各団体の熱意ある取り組みに、選考委員として関わる機会をいただき、感謝します。

今回の選考では、助成後も活動の発展があり、波及効果が期待されるものであるか、発展性をつくっていくために、どのような組織づくりがなされようとしているか、助成金がなくても団体が持続できる基盤づくりが意識されているか、をポイントとして慎重な議論を重ねました。

助成金は、活動が目ざされがちですが、それを支えるための基礎も併せて重要です。会員や協力者、連携団体の広がりをつくるための検討会議を、定期的に設けていただきたいと思います。

社会的に認知が少ない課題への取り組みは、壁にぶつかることが多いと思います。しかし、その壁を乗り越えようとした取り組みは、次の団体への示唆になります。ぜひ、取り組みを発信していただき、その情報発信によって、市民活動がより豊かになっていくことを期待しています。



法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授 佐藤 繭美



「中央ろうきん助成プログラム」の選考に携わり、3年目を迎えました。これまでの助成の成果が少しずつ軌道に乗り始め、地域を巻き込む力をつけてきている団体ばかりで、選考するということがとても大変な作業でした。応募された方々の社会に向かう真摯な姿に応募用紙やプレゼンテーションを通して拝見することができ、私自身が励まされる想いがいたしました。それほど、社会貢献への並々ならぬ努力が垣間見えたからです。

今回、選考をする中で、気になった点は以下のとおりです。皆様の活動の中で多様な社会資源を活用したり、活動に広がりを見せていると推測できるようなものであっても、応募用紙やプレゼンテーションの内容にそこまで描かれていないことです。非常にもったいないと痛感しております。皆様の活動は、社会に誇れる立派な活動です。遠慮せず、多岐にわたる活動経過や成果の全てを記述していただきたいと心から願っています。

自分たちだけではなく、地域や社会のために力を使う活動こそ、誰もが住みやすいまちづくりの希望の光だと思います。ぜひ、社会に光をあてられる活動を目指していきましょう。

中央労働金庫 総合企画部(CSR) 上席調査役(主幹) 岩村 真奈美



新規募集が終了し、継続助成だけの選考となって2年目。これまでの助成を通じて、選考委員と団体の皆様との距離が近くなっているせいか、今まで以上に迷い、悩んだ選考となりました。選考委員会では、これまでの活動で得られた成果や課題を踏まえた応募内容なのか、誰のための活動で、なぜその活動が必要なのか、という問題意識が団体内で明確になっているかという点を重視しながら、議論を尽くしました。どの団体も課題と向き合い、活動資金の確保に苦労しながら活動を続けていることが伝わり、採否を決めるのが辛い場面も多々ありました。

助成金は、採択されなければ使うことのできない不安定な資金であると感じる一方で、選考を通して、団体の活動や担い手の変化・成長を感じることができ、継続助成という仕組みが団体に“お金”だけではない効果をもたらすことをあらためて認識しました。

活動していくなかで、順調に進まず立ち止まることもあるかもしれません。順調すぎてそのまま進んでよいものか悩むこともあるかもしれません。そんな時は、大切な仲間や協力者と話し合い、外の声にも耳を傾け、自団体が進むべき方向性を柔軟に導き出してくれることを願っています。今回の採否にかかわらず、皆様の活動を必要としている誰かのために、団体の活動がこれからもずっと続いていくよう期待しています。

〈協力〉

認定特定非営利活動法人 茨城NPOセンター・コモンズ

茨城県水戸市梅香2-1-39 茨城県労働福祉会館2階 / TEL: 029-300-4321 / <http://www.npocommons.org/>

認定特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房

栃木県宇都宮市平松町561 / TEL: 028-634-9901 / <https://www.utshiminkoubou.org/>

群馬NPO協議会

群馬県前橋市大手町1-1-1 昭和庁舎1階 NPOボランティアサロンぐんま内 / TEL: 027-243-5118

認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

埼玉県さいたま市浦和区東仲町12-12 ツインハイツ102 / TEL: 048-811-1666 / <http://sa-npo.org/>

認定特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

千葉県千葉市美浜区真砂5丁目21-12 / TEL: 043-303-1688 / <http://npoclub.com/>

東京ボランティア・市民活動センター

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階 / TEL: 03-3235-1171 / <https://www.tvac.or.jp/>

認定特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構

神奈川県藤沢市藤沢577番地 寿ビル301号室 / TEL: 0466-53-7366 / <http://f-npon.jp/>

特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

山梨県甲府市丸の内2丁目14番13号 ダイタビル5F / TEL: 055-228-3300 / <http://www.yva.jp/>